



米国海損精算人協会
第124回年次総会関連 Chairman's Dinner 参席記
(2002年10月2日 New York)

—2002年11月22日現在—

I. 米国海損精算人協会 (Association of Average Adjusters of the United States、以下、AAAU) の2002年年次総会、Annual General Meeting (以下、AGM) に先立つ Chairman's Dinner は10月2日 (水) New York の MetLife Bldg. 56階の Sky Club で午後6時から Cocktail Reception が、そして7時から Dinner が開かれると案内を受けていた。

午後5時40分、Madison Avenue 52nd Street の Omni Berkshire Place (Hotel) を妻と共に出る。静かで落ち着いたホテルのロビーからガラスの扉を2つ抜けて歩道へ出ると、そこは喧騒を極める New York の街中だ。高層ビルの間から斜めに下りてくる日の光の中、やたら大型の乗用車と、ガタン、ピシャンとキシリながら走る Yellow Cab、貨物自動車や図体の大きな作業車が轟音と排気ガスを撒き散らして西から東へ一方に流れる。ホテル玄関前の張り出し天蓋の下には宿泊客の一群が外出のいでたちで既にタクシーを待っていた。白い胴着を腰にキュッと締め付けたコンシェルジュ Tony Leggio が呼笛を手に、健気にも道路の中程まで出て鋭く吹き鳴らすが一向に空車は来ない。この様子を見て取った私はホテル前から乗ることを諦め、1本西の5th Avenue まで歩き、そこから南へ向いて流れるタクシーを捜すことにした。

5th Avenue まで出てもなかなか空車が来ない。そのうえ、北を見ると我々の上流で1組の男女がタクシーを求めて手を挙げっぱなしにしている。Cocktail reception は6時から始まると案内されているので少し焦ってきた。と、そのとき黒い大型のリムジンがスルスルと来て私の前で止まった。浅黒い肌の運転手が上目遣いに合図する。明らかに白タクだ。"MetLi' Buildin', close to the Gran' Centr'l! How much?" と私が尋ねる。運転手は口からピーナッツの皮を吹き飛ばしながら Fifteen Dollars と答える。通常ならチップを含めても \$5 の距離だが交渉している時間はない。躊躇する妻を促して乗り込む。この明るさだ。よもや殺されることはあるまい。

この車が私たちの上流でタクシーを求めていた二人連れを無視して私たちのところへ来て止まったのは、私たちの方が少しばかりドレスアップしていたからだろう。\$25 と吹っ掛けなかったのは私たちの身なりでは \$15 がふんだくる上限と瞬時に値踏みしたからだろう。さすが生き馬の目を抜く New York だ。

II. 6時5分、MetLife ビルに入る。玄関ホールは天井高が3階分もあろうか。広々とした空間だ。石張りの床には赤いロープが支柱で蛇行させて張られてあったが、

幸いに人の列はないので真っ直ぐに Reception Desk へ歩み寄り、案内嬢に Association of Average Adjusters Dinner at the Sky Club と告げると I.D. を見せろという。名刺を出すと手元のいろいろな名簿と照合して漸く O.K. という。それから携帯品検査と磁気探知ゲートをくぐってエスカレーターに乗り、エレベーターホールに達する。そこからはエレベーターで一気に56階まで上がる。

Ⅲ. 56階でエレベーターの扉が開くと鮮やかな萌葱色の絨毯が目に沁み入る。先刻までの埃っぽく騒がしい下界から一挙に天界に到達した。まさしく Sky Club だ。Reception で A A A というとクラブ内の道筋を教えてくれた。多分たくさん部屋があるのであろう。廊下を折れ曲がって目的の部屋へ着いたのは6時15分位だった。その部屋には A A A U S 会長の McCormack 夫妻のほか、まだ2人の男性しか到着していなかった。早速同夫妻に挨拶を述べ、妻を紹介する。先客の2人の男性は The Salvage Association の人たち、Deputy Chairman の John Noble と Managing Director の John Lillie で、いずれも London からの客だった。この2人が Chairman's Dinner に招待されているのは、McCormack 会長と長年に亘る交際があるからなのであろう。

部屋は8m×30m位、天井高4m位か。南側が連続するガラス窓になっていて、どっしりしたカーテンが腰の位置で緩やかに絞られている。青地に紅彩が流れる装いに身を包んだ McCormack 夫人 Patti さんは、私と妻に飲み物を取るよう勧め「どうです、素晴らしい眺めでしょ」とこの窓側へ案内してくれる。Manhattan Island のほぼ中央を南北に縦断する Park Avenue を遮るように聳え立つ MetLife ビル。その56階からは、紫色した黄昏に蔽われつつある New York City の南半分が一望のもとに見下ろせる。窓の真下が Park Avenue で、道路の右半分に赤いテールランプの、そして左側に白いヘッドライトの連なりが霧を透して幾分くすんだ色になって見える。その右手に Empire State Building の上半身が天空に突き出し、上層階の壁面がライトアップされているが、残照のためにまだその光は弱々しい。その右を見やると Hudson River の水面が暮れなずむ空を反射させ、真紅の落日が三指平水の高さから沈もうとしている。窓の左側すぐ間近に Chrysler Building、あの特徴ある今でも前衛的な松ボックリの尖塔が、これはクッキリとライトアップされている。そしてその向こうには East River の水面が微かに見える。Empire State と Chrysler のほかは今日は霧の下に沈んでいるようだ。Patti さんの It's a bit hazy today という声が聞こえる。見ると妻の傍らで眼下の景観について説明してくれている。

私は招待客がまだ揃わないうちにと思い部屋の奥へ進み、西南西の方向へレンズを向けフラッシュなしで部屋と食卓の様子を1枚カメラに収める。



そこへ小柄で元気そうな女性が到着した。McCormack 会長から A A A U S の直前会長 Jinnie だと紹介される。アメリカ流なのであろう、Jinnie としか紹介されないでフルネームは分からない。また彼女は名刺を持っていなかったなのでこのときは現職も分からなかった。Jinnie さんによると、若いとき MO A C で働いていたという。

MO A C と聞いたので、私は尋ねてみた。George Zacharkow さんを御存知ですか？「Oh, it's he that hired me. 当時、MO A C には約1000名が働いていました、私は入社したばかりの新米だったのに、ある日彼は私に Jinnie! 何々事件のファイルを持って私のところへ説明に来なさいと言いました。彼が私の名前を知ってくれていることにととても感激したのです。」私は両肩をいからせ、両足爪先立ちになって「とっても大きな人で、確かウクライナ出身でしたね。私は1973年の夏に彼のオフィスを訪ねました。」と言う。「ええ、とても体の大きい人だったけれど、細かいことに気がつく優しい人でした、明日の Annual Dinner には彼の息子さんが来る筈です。」

こんな話をしているうちに A A A の Tim Madge 会長夫妻（夫人は韓国出身の Eun-ja さん）が McCormack 会長の背後に到着した。それを認めた Patti さんは夫の背広の袖をつまんで引っ張り、McCormack 氏の体の向きを変える。Howard McCormack は Tim Madge 会長に両手を差し延べ歓迎する。Madge 会長は背中を丸めて手を差し出し、満面に笑みを浮かべて頭を小刻みに左右に振りつつそれに応える。Tim Madge 会長夫妻には5月に London、6月に Montréal で会っているので、私は

3回目だ。そこへA I D Eの Lahaise 会長夫妻（夫人は香港出身の Deborah さん）が到着する。まだ40代の Lahaise 氏は長身を淡いベージュの背広に包み体をくねくねさせながら私に接近し「Fuji-San How are you? It's nice to see you again here in New York.」と挨拶する。Lahaise 氏の声聞きつけた Patti さんは彼に近付き、2人はフランス式の熱烈な挨拶を交わす。私がNHKのフランス語講座で学んだフランス式の挨拶 *se faire la bise* は、互いに顔を左にそらして頬を僅かに接し、口元をチュッと鳴らし、もう一度互いに顔を右にそらして頬を接し、口元をチュッと鳴らすであったが、2人は左・右・左と3回接し、唇も頬に触れんばかりだった、いや、触れていただろう。私の傍らに立つ妻が私に囁く、「あんなにして口紅が付かないかしら」

そこへカナダ A A A の Fernandes 会長夫妻が姿を表し、皆と挨拶を交わす。夫人は Joni さん。黒い瞳が南国の情熱を秘めているようだ。Rui Fernandes 氏は今年の6月の Montréal 年次総会で就任したばかりの新任会長だが私は Montréal で会っているのが2回目だ。10月24日東京で開かれる我が J A A A の年次総会に来てくれるのは今のところこの Fernandes 夫妻だけだ。私は妻を紹介し、東京で会員と共にお待ちしていますと挨拶する。Rui はもともと円い眼を大きく輝かし、We are very much excited about our trip to Japan と日本へ初めて旅することへの期待を述べる。そこへアメリカ海法会 A M L A 会長の Raymond Hayden 弁護士が一人で姿を現わす。彼は Hill Rivkins 法律事務所の senior partner。1989年に MAASGUSAR という Chemical Tanker が千葉沖で爆発・炎上したとき、私は積み合わせ cargo の関係で彼と同じ側に立ち初めて知り合った。その後、彼が来日したとき、ちっぽけな私の事務所にも2度も来てくれた。

Hayden 氏は Patti さんの姿を目にすると声を挙げ、大きな体の両腕を背広の背ごと蝙蝠のように横いっぱい広げ、Patti さんに覆い被さるように抱擁する。Patti さんも Hayden 氏の背に腕を回してそれに応える。

相前後して Gomes Pereira 氏夫妻（夫人は Maria さん）、John Poulson 氏、Fred Pietropola 氏が到着する。Gomes 氏はブラジルの adjuster との由、McCormack 会長と長年の友人のようだ。名刺によると C M I と A I D E の Titulary Member でもある。John Poulson 氏は35歳位か、B M T Salvage Limited の Regional Manager だ。Fred Pietropola 氏は50歳前後、フィラデルフィアの adjuster、A A A U S の次期会長に nominate されていると紹介された。

これでこの日の参加者が全員揃った。部屋の隅に設けてあるバー・カウンターで思い思いに飲み物のグラスを貰い、立ったままあちらこちらで談笑する。私の妻は英語が得意でないので少し心配していたが、ふと見ると Maria さん、Deborah さん、Joni さんと窓際で何やら立ち話をして、時々一斉に笑っている。これを見て私は安心した。あとで聞くと、Maria さんは今日リオデジャネイロを発つときとても暑かったとか、孫が8人居るとか、Toronto から来た Joni さんには13歳と11歳の2人

の娘さんがあるとか話していたとのことだった。

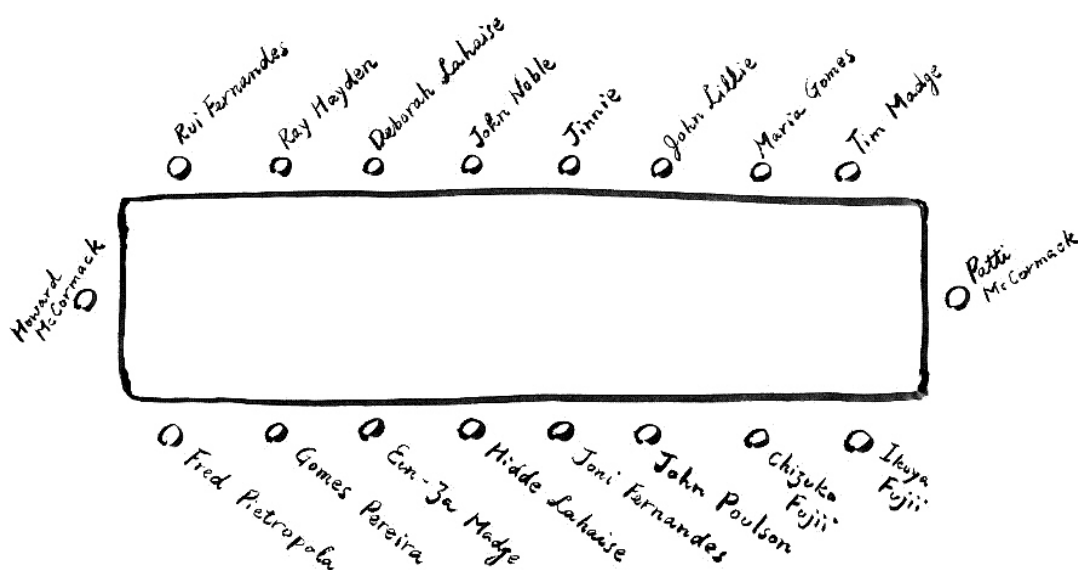
Tim Madge 氏が私に近付き「東京に招待されたが行けなくて申し訳ない。年によると秋に韓国へ行くこともあるのでその便があればと思ったが今年は・・・」と述べる。彼からは東京を発つ前に来れないことを聞いていた。私は人差し指を立てて「We all are subject to God's order」と答える。

Lahaise さんがやって来る。彼は New York へ来る前に手紙を寄越し、東京行きを考えているが baby sitter を見つけることが難しいと書いてきていた。「Fuji-san I have given it a great deal of time but ---」私は彼の手を取り「Don't worry. Let's make it some other time」そう言えば、彼も Montréal には Deborahさんを伴わず1人で、しかも Chairman's Dinner の行なわれる日に Rotterdam を発ち、空港から会場に直行し、少し遅れて食卓についたのだった。皆、忙しい。40代の彼ならなおさらであろう。

その間、Patti さんは暫く立ち話をしているかと思うと、出窓のようになったところへ体を斜めにして腰を下ろし、首だけ外へ向け、下界を眺めている。数メートル離れたところで McCormack 会長が小声で私に話し掛ける。Ikuya, I appreciate you sent me a letter of invitation to Tokyo. でも Patti は立っているのが辛いんだ、察して欲しい。私は頷く。そう言えば、Howard McCormack は5月の London における A A A 年次総会の時夫人を伴っておらず、妻は丈夫でないのと言っていた。

残念だが、これで我々が10月23~24日に東京で迎えるのは Fernandes 夫妻だけだということが確定した。でもそれだけでも有り難い。

7時頃、着席の声が掛かる。食卓上に小さな名札が立ててあり、そこに着席する。メニューは置かれていなかった。



僅かの間に窓の外がすっかり暗くなり、また靄が少し薄くなったのでマンハッタ

ン島南半分の無数のビルの灯火が夜の帷を背景に浮かび上がってきた。天井からはシャンデリアが幽邃な光線を投げかけ、卓上にはあちらこちらにクリスタルのコップに入った小さな蠟燭がチラチラと瞬き、それが卓上のワイングラスに反射する。食事の前に金モール制服姿の給仕長が本日のアントレは平目か羊肉ですと告げ、各人からその選択を求めた。

食事そのものは何の挨拶も、乾杯の儀式もなく始まった。最初にサラダが供され、ゆったりと間隔を置いて次にアントレ、それと同時に白ワインと赤ワインが供され、デザートにはリンゴの薄切を甘く煮たものとアイスクリームが供された。

その間、参席者は思い思いに近くの人と会話を楽しむ。妻の左の Poulson 氏は England 北東の港町 New Castle の出身で、今は New York に勤務しているとか。私の真ん前の Madge 会長は Poulson のアクセントから北東部出身と分かると言う。妻と私はもう20年も前、レンタカーで London を出発し、Oxford で1泊、Stratford Upon Avon、Warwick Castle を廻って Cambridge で1泊したドライブ旅行の思い出を話す。そうかと思うと、Patti さんは私は Ohio で育った子供の頃、近所のどこの家も扉は開いていて出入り自由、互いに自分の家のように行き来して過ごした、結婚して New York へ来たらまるで違うので随分戸惑ったなどと話す。Jinnie さんはTVのある人気料理番組で主役の女性がワイングラス片手にクイクイとひっかけながら説明するうち次第に口が滑らかになり、うっかりして調理を間違えようと肩越しにその料理をポイと捨ててしまつて可笑しいなどと話す。Jinnie さんは私が中学生の頃見たハリウッド映画の女優ジューン・アリソンのような雰囲気を持っている。

デザートが出された後の8時半と覚しき頃、長いテーブルの両端に遠く分かれて座っていた McCormack 会長とその夫人 Patti さんが席を交代した。主催者である夫妻が参席者と少しでも満遍なく話せるようにとの趣旨であろう。その心遣いに感服した。こうして私のすぐ右に座ることとなった McCormack 会長は「実は明日の会長演説の原稿は未だ完成していない。今日の午後の時点で32頁だ。ところがある人から attention span (聴衆の注意を魅きつけておくことのできる時間の限度)は20分だと言われた。どうしたものか困っている。」などと John Lillie に話し掛けていた。

9時過ぎ頃、McCormack 会長が席についたまま自分の目の前のワイングラスをスプーンでカンカンカンと響かせて皆の注意を求め、そして挨拶の言葉を述べた。

「私はマリンの世界に adjuster 及び lawyer として身を投じて数十年、その間、仕事を通じて素晴らしい人たちに会ってきた。とても幸運だったと思う。そしてまた今日は世界の主要なAAAの会長夫妻の全員がこの場に集まって下さった。このように全員が揃ったことはもう随分長い間なかったと思う。素晴らしい。皆さん本当にありがとう、ありがとう。」今年の5月9日 London の Baltic Exchange で開かれた英国海損精算人協会 (AAA) のAGMでのパネルディスカッションの際、

Madge A A A会長の隣に座ってパネラーを勤めた Howard McCormack は短軀だが驚鼻に鋭い眼光を備え、少し斜めに歪めた口から適確な言葉が100名を超える聴衆に対して機関銃のように迸り出て迫力満点であった。しかし、このときの同氏は別人の如く頬が緩み、眼は優しさを湛え、何度も何度もゆったりと感謝の言葉を重ね、今宵のことを心の底に彫り込んでいるように見えた。

次いで Tim Madge A A A会長が立ち上がって挨拶の言葉を述べた。それから時計の針と逆周りに Fernandes Canada A A A会長、Gomes 氏、Lahaise A I D E会長がそれぞれ立ち上がって挨拶の言葉を述べ、私の順番がまわってきた。私は次のように述べた。

「私は今日この場で皆様と共に在ることを大変光栄に思っています。5月には London の Savoy Hotel での A A A Chairman's Dinner に一人で参加し、その翌日の壮大華麗な Annual Dinner に目を奪われ、6月には Montréal で Canada A A A の4つ行事の全てに一人で参加し、そのいずれもが非常に friendly な雰囲気の中に執り行なわれるのを見て深く感銘を受けました。そして今晚、私は初めて上司である妻に付き添われて当地 New York での Chairman's Dinner に参加することができました。」

上司 superior という言葉を使ったとき皆がドッと笑い、中の誰かが何か言ってマゼ返した。

「しかし今日この会場で次々と到着するゲストを迎えるときの McCormack 夫妻の様子を私が観察したところ、McCormack 氏も Patti さんの control 下にあるように見受けられたので私は少しホッとしました。」

と言うとまた皆がドッと笑い、McCormack 氏は

「いや実はそうなんだ。」

と言ったのでまた皆が笑った。

私は続けた、

「この機会に J A A A と New York ないし A A A U S の御縁についてお話したい。J A A A の古い記録によると、1955年に Mr. Miyatake という人が Appleton & Cox で1年修業し、宮武氏は後 J A A A の会長を1971年と82年、83年、計3期勤めました。また1971年に Mr. Nakanishi という人が Johnson Higgins で6ヶ月修業し、その後、1992年、94年、95年、96年と計4期 J A A A 会長を勤めました。そして1981年には Mr. Akira Mori が Johnson Higgins の Mr. Effrat と Mr. Myerson の下で9ヶ月、1990年には Mr. Eiichi Nakata が Mr. Effrat の下で S C B において9ヶ月修業し、この2人は現在 J A A A の secretaries をしてくれています。Akira Mori は私の手元にメッセージを寄越しているのですそのまま読みます。“It was the golden age and the height of prosperity for Average Adjusters, on the eve of the crumbling of American Fleet by the Reagan

Administration.” 私はと言えばそのような経験を持ち合わせていないけれど、1973年初めて New York を訪れた際、Leslie Buglass さんに会いました。たまたまその年は彼の “Marine Insurance and General Average in the U.S.” の初版が出版された年で、I purchased a copy of his book directly from his hands without discount。」

without discount と言ったとき再び皆がドッと笑った。Lahaise 氏が Did you receive a receipt? と割って這入ったので、私が I did not ask but he gave me a receipt と答えたらまた皆が笑った。多分、Leslie Buglass 氏には私の知る以外にもその几帳面さを伝えるエピソードがあるのであろう。私は締め括りに次のとおり述べた。

「そのお陰で私はその買い求めた本の見開きに notation を貰いました。昨夜、娘が FAX してくれて、これがその見開き頁です。

To Ikuya Fujii with best wishes. This is the first copy of this book to be exported to Japan. Leslie Buglass, New York, August 1973」

皆と同じくらいの拍手を貰って着席した。

そのあと 2 周目の挨拶に入り、John Lillie、Jinnie さん、Ray、Fred、John Poulson がそれぞれ挨拶の言葉を述べた。

かくして2002年 A A A U S の Chairman's Dinner は午後10時10分頃、和やかな雰囲気うちに散会した。

以 上



アメリカ海損精算人協会第124回 Annual General Meeting
on Thursday 3rd of October, 2002
at St. John University Manhattan Campus, New York



Howard
McCormack 会長

—2002年11月18日現在—

10月3日（木）朝5時半起床。確か Annual General Meeting は午前9時からだった。30分前に会場に着くことを目標とし、Manhattan 島のほぼ中央に位置するこのホテルから南端の会場までタクシーで30分かかることを計算に入れると7時半にはホテルを出なければならない。もしかして、まだお寝みかもしれないと思いつつ、止む無しと考え、6時40分 Room 533岡田武志理事の部屋に電話する。ルルル、岡田理事、いや10時だと思います。手元の案内状を見る。確かに10時だ。9時というのは一連の functions の一つ、前日 St. John 大学で開かれた View Points Seminar, Modern Shipowner Liability Exposures vs. Traditional Protection and Indemnity Insurance の開始される時刻だった。もしお寝み中であつたら何とも申し訳ないことをしてしまった。受話器を手に、壁に向かって低頭する、妻に「モーッ」と叱られる。岡田理事は東京海上のNY支店に立ち寄り、Appelson 氏と共に会場へ向かうとのことだった。

うららかな朝の陽光の中、妻と私を乗せたタクシーは Madison Avenue から Park Avenue、Lexington Avenue、Third、Second、First Avenue と東へ突っ切り、やがて East River 沿いの Franklin Roosevelt Drive を Manhattan 島の南端へ向けひた走る。Highway の右側に沿って流れる芝生と木立の後ろに赤褐色のレンガ張りの中層アパートが幾つか佇み、タクシーが走るにつれ向きを変えているように見える。よそでは荘重な建築を好む私なのに、なぜか East River 沿いのこの道を走るときだけは、このレンガの垂直面に方眼紙の目のように小さな窓を並べただけの無機質なアパート群が却って古きアメリカの質素と清潔を伝えるようで好ましく映る。ヨーロッパで王権と封建領主の圧制下に呻吟し、能力があつても身分制度の桎梏下で芽を出すこともできず、宗教的信念すら表に出せなかった人々が新天地を求めてアメリカに渡ってきて、このようなアパートに住むことができたとき、まずは平等を実感したのではなかろうか。そしてたっぷりの食物で胃袋を満たしたとき、この窓から East River の反射を見ながら、故郷の親戚、知人にアメリカへ来たら働きさえすればとにかく腹いっぱい食べられるぞと書き送ったのではなかろうか、そんなことを考えていた。

逆光の中、左手に massive な Brooklyn Bridge の石造りの巨大な橋脚を見て過ぎ、やがてタクシーは Manhattan 島南端に達し、妻は Staten Island Ferry 手前の公園で下車した。天気が良いので Statue of Liberty へ渡ってみるといふ。そこから私の目的地 Murray Street の St. John University Manhattan Campus は2分程しかかからなかった。大学のキャンパスといっても敷地という程のものではなく、ただ道路脇につい最近できたと思われる、鉄とガラスで出来た、温室植物園のような建物だった。

建物の入り口をくぐると会場はすぐ分かった。定刻40分程前だったが既に会場前のホ

ールには30～40人が到着して、コーヒーカップを片手に挨拶をし、雑談をしている。あたりを見廻すうち、前夜の Chairman's Dinner で一緒だった Lahaise A I D E 会長、Brazil の adjuster Gomes Pereira 氏、Tim Madge A A A 会長に会ったので挨拶を交わす。ついで人込みの中、岡田理事と Appelson 氏に会えた。Appelson 氏は1992年11月、丸の内の東京海上で開かれた海事クレームに関する国際シンポジウムで私と共に講師として招かれたことがあるので顔見知りだ。6月に Montréal で会ったばかりの人に何人も出くわす。Canada の人、New York の人と覚えている人もいるし、はて、どちらの人だったかと忘れてしまった人もいる。Montréal と New York は飛行機で1時間程だから行き来は頻繁、手軽なのであろう。

と、背の高い、顔見知りの男性が私に話し掛けてきた。確か Montréal で会ったことは覚えていたが名前を思い出せなかった。慌てて名刺を取り出すと「私は貴方の名刺はもう貰っています」と言いながら名刺をくれた。見ると Jonathan Spencer。「貴方は1993年8月に Florida 州の Tampa で起きた Balsa 37と Oil Barge 2隻との衝突・炎上事件に関してフィリピンで操舵手に interview したことがあるでしょう、実はいま私はそのときの貴方の Report を読んでいますよ。」「え、あの事件はまだ終わっていないのですか。確かに私は New York の Lawrence Brennan 弁護士に依頼されて7～8年前にフィリピンに赴き、Cebu 島で Balsa 37の操舵手にインタビューしたことがあります。あのときは私がこういう人にこれからインタビューに行くと言ったら、そこはフィリピンでも最も危険な所だと言われました。マニラから1時間半程飛んで、行って見たら操舵手の住所地は貧民窟の中にあり、探し当てると幸い本人が居て自分で住居を改造しているところでした。年齢は30歳ちょっと過ぎで、左耳にピアスをぶらさげ、左腕に大きな蝶の刺青をしていました。掘っ立て小屋のような木造の小屋に囲まれた、小さな空き地の木陰に椅子だけ持ち出して貰い、そこで3時間程インタビューしました。インタビューの間中、ボンゴドラムスのようなスピーカーの音が周囲の掘っ立て小屋から押し寄せ、足元では闘鶏の鶏がけたたましい声で鳴きながら羽根をバタバタさせて埃と羽毛を吹き上げるので閉口しました。」

誰かが私に Mr. Myerson を紹介してくれた。挨拶を交わす。貴方のことは Akira Mori からたくさん伺っています。同氏は年の頃68歳位か。中肉中背に少し背中を丸くし、実に穏やかで暖かそうな紳士と見受けた。もう20年も前、森さんが New York で G A の実務を勉強したときの先生であったと聞いている。

やがて総会が始まるからと促され、会議場へ案内される。会議場は収容能力200人位であろうか。ギリシアの野外劇場のように前方の低い位置に舞台が設けられ、それへ向け座席がすり鉢状に配置されている。私は中程、舞台へ向かって少し右側の席に着いた。私のすぐ右隣には Brazil の adjuster Gomes Pereira 氏、辺りを見廻すと右上後方に Tim Madge A A A 会長、その近くに Rui Fernandes Canadian A A A 会長、Hilde Lahaise A I D E 会長が席を占めている。私の右下前方5～6mのところ岡田理事と Appelson 氏の姿が見えた。会場には全部で100人位か。席に落ち着いて右隣の Gomes

Pereira 氏の膝上を見ると、A 4 の白い紙に I AM PRIVILEGED --- (私は・・・を名誉に思っています) という 1 字の大きさが 3 cm 角位の巨大な活字でタイプされた文章が私の目に飛び込んできた。これはこのすぐ後の McCormack 会長の演説が終わった直後に各国海損精算人協会の会長から期待されている挨拶の言葉を予め用意して持って来ているのだ。私より 7～8 歳は年長の、しかも McCormack 会長の長年の友人である Gomes Pereira 氏ですらブラジルでここまで用意してきているのに、私は昨夜の Chairman's Dinner の礼を即興で短く言えばすむと思って何の用意もしていない。いささか焦った。しかしもはや如何ともなす術はない。

10:05 第124回 A G M開会が McCormack 会長によって宣され、冒頭の挨拶がなされ、この総会に参加している各国 A A A の会長として Tim Madge A A A 会長、Rui Fernandes Canadian A A A 会長、Ikuya Fujii Japanese A A A 会長、Gomes Pereira Brazil A A A 会長、Hidde Lahaise A I D E 会長の名がこの順序で McCormack 会長から呼び上げられた。呼び上げられた我々はそれぞれその場で立ち上がって目礼し、会場の参加者から拍手の挨拶を受けた。

次いで McCormack 会長から彼が任期中 1 年になしたこと、London、Montréal の A G M その他の functions に参加したこと、Montréal では David Marler 元会長の自宅に招待された顔触れまで含めていつもの早口で報告された。

そして彼の会長演説『The Impetus For Change In The 1994 York Antwerp Rules — Real Or Fanciful?』が始まった。彼が舞台左側の演台で話している間、その右側 5 m 程中央寄りに妙齢の女性が 1 人でゆったりと椅子に腰掛け、パンタロンの膝を組み、私達聴衆にその美しい横顔を見せ、McCormack 会長を見守っている。McCormack 氏の令嬢だろうか？

演説の要旨は、

「I U M I が現行の 1994 年 Y A R に共同安全主義を一層強く盛り込むことにより、本船が避難港に到着したらそこで共同海損を終了させ、それより先に生ずることあるべき貨物の仮揚げ費用、仮置き費用、仮修繕費用、再積込費用の全てを共同海損から除外しようという改革案を提案してきている経緯と現状について詳述し、McCormack はもしそのような改革がなされると航海が放棄される事例が増加し、或いは貨物そのものが避難港入港より後、単独海損を受ける危険性が増加するであろうと警告を促し、結局、そのような改革案に反対するというものであった。また、I U M I がそのような改革案を推進する理由として掲げている substandard 船の主機故障とか、その他の整備不良から起因する共同海損にこれ以上貨物が共同海損分担金を支払わされるのは、まるで本来それら悪質船主が負担すべき整備費用を代わりに支払ってやっているようなものだという考え方に対しては、貨物がそれら substandard 船に積載されることを未然に防止することは貨物保険者が引き受けるうえで船籍とか、船級協会とか船齢により懲罰的な割増を課すなど工夫をすればできることで、そのような努力もしないで整備良好な船

も整備不良船も一緒くたにして論じているのは筋違いだ。」

と主張するものであった。

彼は舞台の左端に設けられた演題から機関銃のような早口で、しかし強弱と抑揚をつけて話した。会場はシンとして、引き込まれるように聴き入っていた。彼の演説は native speaker でない私にも雄弁だと察せられたが、何と云っても若い頃、海損精算人として人生をスタートし、保険ブローカーに転じ、夜学に通って弁護士資格を取り、アメリカ有数の海事法律事務所のパートナーになり、アメリカ海法会の会長を勤め、数多くの C M I の国際会議に参加して欧州や英国の大物と渡り合ってきた者のみが有する生々しさと迫力があつた。私はその全てを follow することはできなかつたが、common safety as opposed to common benefit の言葉と共に abolition of GA or reduction of GA とか no support for extending scope of general average とか IUMI proposals were made by cargo interests alone とか total misapprehension とか increase of abandonment of voyage とか IUMI is attacking などの語句が次々と耳に突き刺さってきた。そして私にとって旧知の Richard Shaw の名前に加えて、この5月以来知り合っている Tim Madge、5月の London における A A A U K の総会后 lunch の後で面談した Ben Browne、同じ日の夜 London Savoy Hotel での Annual Dinner の際、雛壇の私の席の2つにおいて右側の席から大股で駆け寄ってきて慌しく握手してくれた長身の C M I 会長 Patrick Griggs、そしてこの日の朝紹介されたばかりの Howard Myerson などの名前が次々とフルネームで登場するので、私はドラマを観客席からではなく、舞台の袖から覗き見ているような感覚に把われた。話し終わって McCormack 会長は満場の拍手を受けた。約40分が経っていた。

Any questions from the floor? という呼び声に応じて私の右後方から英国海損精算人協会 Tim Madge 会長の声が聞こえた。前夜の Chairman's Dinner に対する礼と、今なされたばかりの McCormack 会長の演説への謝辞が述べられた。Madge の言葉が終わったとき、私の右隣に座っている Gomes Pereira 氏と Canada 海損精算人協会会長の Rui Fernandes と、ヨーロッパ海損精算人協会会長の Hidde Lahaise 氏の3人の声が同時に聞こえた。結局、Lahaise 氏が次に挨拶を述べた。すると次に Gomes Pereira 氏と Rui Fernandes が同時に発言しようとし、Rui Fernandes は「どのみち私達は2人とも Portuguese ですが・・・」と笑いながら挨拶を述べた。おそらく英・米・欧・加・日は世界の海損精算人協会の5つの主要な協会であろうから、それからすると Fernandes 会長の後は私が挨拶すべきかもしれないとは思つたが、私の右隣の Gomes Pereira 氏は明らかに私より年長であるし、McCormack 氏の長年の友人らしいので私は順序を譲ることとした。Gomes Pereira 氏は I AM PRIVILEGED --- と用意した挨拶文を読み上げた。そして私の番となった。私は立ち上がり、およそ次のように述べた。「My name is Ikuya Fujii, the 45th Chairman of the Association of Average Adjusters of Japan. On behalf of my association I bring greetings to all of you present in this place. この機会に日本海損精算人協会と米国海損精算人協会及び New York との縁について申

し述べたい。我が協会の過去の多くの会長が当地 New York の海損精算事務所で教育を受け、実務を見習ってきた。そのうちの2人は日本海損精算人協会の会長職を計7年務めた。現在、我が協会の事務局の2人も当地で修業した。日本の協会がこれまで A A A U S から受けた enlightenment と assistance に感謝したい。本日の McCormack 会長の演説について、common safety as opposed to common benefit は最近数年間、日本の海損精算人の間でも、海事弁護士の間でも最も議論されている問題だ。本日の McCormack 会長のこの点に関する comprehensive な講演は、私にとって単に educational であったばかりでなく stimulative でもあった。私はこの内容を我が協会のメンバーになるべく早く伝えたい。」

私はこれを古代ギリシアの野外劇場のような扇状に開いている席の中程から舞台左端の McCormack 会長の方へ向かって話した。私が話す間、私と McCormack 会長の間の席に座っている十数人が私の方を振り向いたまま見つめていたのが自然に目に入った。私が予め用意した原稿を読み上げているのか、原稿なしで話しているのかチェックされているような気がした。私が話し終わったとき、他の人が受けたと同じ位の拍手を貰った。これで McCormack 会長の演説は終わった。

続いて次期会長選任の議事に進み、フィラデルフィアの海損精算人 Fred Pietropola 氏が推挙され、このとき同氏の生年月日、学歴、職歴が随分詳しく紹介され、そのうえで拍手で選任された。かくして午前11時40分頃に A A A U S 2002年年次総会は閉会した。

以 上



Howard
Myerson 氏

米国海損精算人協会第124回 Annual Luncheon
on Thursday October 3, 2002
at St. John University Manhattan Campus, New York

—2002年11月18日現在—

Annual Luncheon は午前中の総会が行なわれた建物の少し上、6階の明るい光が射し込む15m×15m位の部屋に用意されていた。部屋の一隅に飲み物が用意され、左側にサラダとかスパゲッティとか、10種類程の料理が用意され、約30人の招待客はそこで紙の皿に好みの料理を取り、室内に用意された4つの大きな円卓の思い思いの所に座って軽い食事をするというものであった。私は水を貰い、軽い食事を少しだけ取って Fernandes C A A A 会長と朝方紹介されたばかりの Howard Myerson 氏の座っている円卓に席を取った。

食事が終わった頃、Myerson 氏に改めて挨拶し、話し掛けた。「J A A A の会報によりますと、1996年秋に開かれた J A A A の総会にいらして戴いて、そこで記念講演をして戴いていますね。残念ながらその年、私は参加していませんでしたが・・・。」「そうです、その年は重松さんが同じ月の始めに開かれた A A A U S の総会にいらして下さった年でもありました。東京で私は確か1994年の C M I Sydney 会議の模様など短いお話をしました。そのあと私はタキヤマに暫く滞在しました。」タキヤマとはどこだろう、タキヤマ、タキヤマと私が訝しげに呟くうち、彼が「ギフ」というので高山のことだと分かった。「それより前の1984年に私は妻と共に平泉、松島、日光、鎌倉、京都、大阪、姫路、岡山、広島、萩と各地を3週間で廻りました。岡山では Akira の家に泊めて貰いました。」「そんなに。姫路は私が育ったところです。高校時代は毎朝、城の内堀沿いの道を歩いて通り抜け学校へ通ったものです。」「そうですか。私達も姫路城に登りましたよ。・・・私は今はもうすっかり引退していますが、この会に出ることを何よりの楽しみにしています。古い友人に会えるので・・・」静かに語るその穏やかな表情はその心情を言葉よりもよく語っていた。私所携の Zaurus に写真をお願いしたところ、快く応じて下さった。それを隣の妙齢の女性が覗き込む。見るとどうやら午前中 McCormack 氏が講演中、舞台の上、約5m離れたところで椅子に座って McCormack 氏を見守っていた女性だ。名刺を交わし Eileen M. Fellin 嬢と知る。Fellin 嬢なら知っている、A A A U S の事務局を担当し、東京に居る私に招待状を送ってくれたその人だ。そんなことに気が付かない私の迂闊なこと。名刺によると本職は American Hull Insurance Syndicate の claims manager だ。私は改めて御礼を述べたが、そのギリシア彫刻のような凛とした美しさに気後れして、言葉を続ける勇気を失っていた。

午後1時半頃、まだ十数人残っている会場をヒソソリと抜け出し、近くの 140 West Broadway の書店 New York Nautical に立ち寄り、潜水兜のついたキーホルダーを見つけて買い求め、ホテルへ戻った。

以 上



米国海損精算人協会 Annual Dinner に参加して
2002年10月3日 於 Marriott Marquis Hotel, New York

—2002年11月22日現在—



McCormack 会長

- I. アメリカ海損精算人協会2002年の Annual Dinner は年次総会当日の夕刻、New York 市内 Broadway 1535 所在 Marriott Marquis Hotel の Astor Ballroom で6時半から Cocktail、Dinner は7時半から、black tie 着用のことと案内を受けていた。
- II. Marriott Marquis Hotel は Broadway と 46th Street の交差するところにある。52nd Street Madison Avenue のホテルから車なら5分の距離だ。タキシードに着替え、タクシーで7th Avenue を南下する。Times Square に近付くにつれ街並みのネオンはやたらけばけばしくなり、新宿歌舞伎町に似てくる。その真っ只中に Marriott Marquis Hotel は位置する。もう10年も前になろうか、アメリカ海法会の年次総会がこのホテルで開かれたとき、Douglas Jacobsen 弁護士に招かれて一度だけ来たことがある。

地上階のエレベーターホールは壁が全て鏡張りで、どこにエレベーターがあるかすら見分け難い。ともかく上がってみると、会場前のホールには既にタキシード姿の男性100人程と、盛装の女性が20人程群れて、グラス片手に談笑していた。密集しているために声高になっている。受付で全12頁の小さな案内書を貰う。この日の招待客11名（うち牧師2名）、出席者154名（うち女性21名）がアルファベット順に3頁に亘ってプリントされ、そのうえ ADDITIONAL ATTENDEES 34名（うち女性7名）をプリントした緑の紙が挟まれている。人数が多いので知った人にもなかなか会わない。と、McCormack 会長が私の姿を見つけ傍らの男性を紹介してくれる。名刺を交換する。Nurse & Bowles 法律事務所の Lawrence J. Bowles 氏、1994年 C M I Sydney 会議の head of the U.S. G.A. Delegation だ。Bowles 氏曰く、今日の McCormack 氏の会長演説は論旨明快で、easy to follow であったと。会話は自然に Y A R のあり方についての I U M I とアメリカ海法会・A A A U S との見解の相違に及ぶ。私が質問する。「こんな説を聞いたことがあります。C M I は大陸の人が牛耳っている。現在、英国人の Patrick Griggs を C M I 会長に戴いているのは、その実、アメリカ人の Wiswall 氏（現 C M I 副会長）を会長にさせたくないためだと。どうですか。」McCormack 氏は即座に肯く、“Exactly”。どこの世界にも虚々実々の生臭い駆け引きというものがあるらしい。

「Mr. Fujii！」かん高い声が聞こえる。振り向くと頭一つ周囲から突き出た Stephen Rible 弁護士だった。1979年の8月、戸畑向けの石炭10万8,000トンと鉄鉱石29,000トンを積載した “STOIC” という大型撒積船が尖閣諸島の赤尾嶼で座礁・沈没して全損となったとき、私と戸田弁護士は貨物保険者から依頼され、沖縄の裁判

所に証拠保全手続きを申し立て、乗組員を証人尋問して有力な手掛かりを得た。そのとき依頼者は New York 仲裁のための代理人の 1 人に Rible 弁護士を選任した、そして東京と New York と協力し、約 8 年の苦勞の末、回収に成功したことがあった。その彼の子息 Daniel が 9 月 11 日事件のとき World Trade Center に居て、辛うじて逃れ出たということ New York の別の弁護士から聞いていたが、私は詳細を聞くのが恐ろしくてこれまで尋ねなかった。それを詫び、いま尋ねる。私は Daniel が 5 歳のときの写真を見たことがある。去年は 24 歳だった筈だ。「息子はそのとき Tower One の 81 階で午前 8 時から働いていた。コーヒブレークに下の階へ降りようと思って机を離れかけたとき、最初の衝撃を受けた。悲鳴が上がり、上司は事務所の中央に全員を集めた。その事務所には 29 人が居た。全てのエレベーターの扉が吹き飛ばされ、そこから火が噴き出していた。そこで非常階段から下へ向かった。60 階まで降りたときもう一つ大きな爆発音を聞いたという。後で考えると Tower Two に 2 機目が突っ込んだときのものらしい。降りて行く途中、非常階段は混雑し、時々途中階の人々が全員階段室に入るまで待たなくてはならなかった。下へ降りる人は階段の右側を下り、左側を消防器具を背負った消防士が隊列を組んで上がって行った。約 50 分かかって地上階に達したとき、踝までの深さの水の中を歩き、外に出たときコンクリートの上に飛び降りて死んだ人々の恐ろしい光景をたくさん見たらしい。私と妻は息子の生還に喜んだが、暫くすると彼は I did not save others, I did not save others とわごとのように繰り返すようになった。私は言った、Danny, you have saved one, your mother! と言った。それを聞いて少し気持ちが収まったようだ。」ここまで語った Steve は声が潤んできた。私も胸が塞がった。

そこへ John Poulson 氏がやって来た。前夜の Chairman's Dinner で私の妻の左側に座っていた、英国 New Castle 出身の人。現在、BMT Salvage Ltd. の New York 地区担当マネージャーだ。「Mr. Fujii 知っているか、長崎で建造中の P&O の大型客船が昨日から燃えているらしい。既に London からサーベヤーが日本へ向かったと先ほど連絡を受けたところだ。」長崎で大型客船建造といえば MHI しかない筈だ。本当だろうか。もし本当ならこれは日本の造船工業界全体のために大変残念なことだ。それと同時に私の脳裏には 1942 年の 2 月にここ New York の Hudson 川に面した 88 番埠頭で出火後横倒しとなり、薄氷の浮かぶ水面に無惨な巨体をさらしたフランスの豪華客船 NORMANDIE 号の映像が去来した。NORMANDIE 号は 1935 年に竣工し、フランスとニューヨークの間を往復していたが、1939 年 9 月、第二次大戦勃発により New York で係留、のちアメリカ政府に接收され、その後 88 番埠頭で兵員輸送船への改造工事を受けていた 1942 年 2 月 9 日、溶接工の不注意により出火し、消火活動の水により翌日転覆したのだった。私は NORMANDIE の数奇な運命を野間恒著「豪華客船の文化史」で初めて知り、今回 New York 入りした翌日 140 West Broadway の書店 New York Nautical を訪れ Frank O. Braynard の PICTURE

HISTORY OF THE NORMANDIE を買い求め、ここ数日就寝前にベッドの上で眺めていたのだった。

やがて7時半に近付いたのであろう、それまでグラス片手に立ち話に熱中していた人の群れは会場の Astor Ballroom へ吸い込まれた。室内は25m×50mもあろうか、そこに円卓が3列に約25ヶ並べられている。右側に高さ30cm程のステージが設けられている。天井高が1フロア一分しかないのがやや残念だ。各国海損精算人協会の会長は最前列の中央、ステージの真ん前の Chairman's Table に着くよう求められた。但し、席の割り当てはなされていなかった。私は Brazil A A A の Gomes Pereira 会長と Canada A A A の Fernandes 会長の間に着席する。このテーブルにはこの他 McCormack A A A U S 会長、Pietropola A A A U S 次期会長夫妻、A A A U S 直前会長の Jinnie さん、Tim Madge A A A U K 会長の5名が席に着いた。Lahaise A I D E 会長はなぜか姿を見なかった。

McCormack 会長が舞台右のマイクに立ち、9月11日事件で3人の仲間 Robert Colin、Robert C. Miller、William E. Wilson を失ったことへの追悼の言葉が短く述べられ、今夜この会場にその遺族が招待されていること、The Seamen's Church Institute の牧師にも来て貰っていることが述べられた。茶の長衣を腰紐で結わえた牧師がマイクに進み、祈りの言葉が捧げられる。遺族代表として3人の婦人が呼ばれステージに並ぶ。Miller 夫人は日系の名だ。賛美歌が歌われ、McCormack 会長から3人の婦人に記念品が贈られ、どうか今宵は我々仲間と共にこの dinner を enjoy して下さいと労わりと励ましの言葉が述べられた。

それから食事が始まった。挨拶の言葉も、乾杯の音頭もなかった。メニューは下記のとおり。

**SEVEN GRAIN WILD MUSHROOM
& ROASTED SQUASH TIMBALE
SAVORY GARNI**

* * *

**ARUGULA AND BABY FRISEE SALAD
CHERRY TOMATOES**

LEMON AND ALMOND VINAIGRETTE

* * *

**FILET MIGNON WITH CONFIT OF CRISP
SHALLOTS AND SWEET PEPPERS
MERLOT REDUCTION**

**VEGETABLE RISOTTO, JUMBO ASPARAGUS
HERB ROASTED TOMATO**

* * *

DINNER ROLLS AND BUTTER

* * *

ASIAN NUT TART WITH GINGER ICE CREAM
PECANS, COCONUT & RAISINS BAKED IN
ALMOND CREAM & SHORT BREAD PASTRY
LYCHEE COMPOTE & JASMIN SYRUP
FANCY FRIANDISE

* * *

COFFEE AND TEAS

* * *

WINE – MERIDIAN VINEYARDS CHARDONNAY
PENFOLDES RAWSONS RETREAT MERLOT

食事が始まると同時に目の前のステージ上で3人の女性による弦楽三重奏が始まった。モーツァルトの divertimento、小夜曲、メンデルスゾーンの歌の翼など、典雅な調べ、甘美な調べが耳に快い。

前夜 McCormack 会長から紹介された2000～2001 A A A U S 会長の Jinnie さんから名刺を貰う。フルネームは Jean E. Knudsen、C N A の Vice President で National Claims 担当だ。午前中の A G M では白い装いだったが、今は真紅のドレスに身を包んでいる。彼女はいつも明るさを周囲に放っている。右隣の Gomes Pereira 氏は「日本人は素晴らしい、ブラジルで雑草しか生えない広大な荒地を最近、日系ブラジル人が土壌改良し、大豆畑に変え、いまや大変な生産量でブラジル経済に貢献している。」と話し掛ける。私は向かいの Pietropola A A A U S 次期会長に話し掛ける。「Your name sounds like Italian」「そうです、Pietro と Paulo の合わさったものです。祖父はイタリア語を話していましたが、私は全くできません。」隣のテーブルを見やると、岡田理事は Ray Hayden アメリカ海法会会長と Appelson 氏の間で挟まれ話が弾んでいるようだ。左隣の Rui Fernandes Canada A A A 会長は3週間後に迫った我が日本海損精算人協会の定時総会に夫人 Joni さんと共に来てくれることになっているので、成田から都心への交通とか、京都・奈良について説明する。

食事が終わりに近付いた頃から、あちこちでテーブルの間を動き回る人が目立ってきた。ふと右側1人隔てて McCormack 会長を見やると、任期を無事果たしてすっかり寛いでいるようだ。「Mr. McCormack, you seem to be very happy to have discharged all your duties.」「そのとおりだ」「1枚写真をお願いしていいでしょうか、フラッシュは焚きませんか。」「Yes, please」慎重に発火しないようにセットして着席のまま距離1mで写してみたが、やはり露出不足で写真にならない。そのことを告げるとフラッシュで撮ってくれという。試みると顔面が少し白くなりすぎたが、私の技術ではこれが限度だ。それでも McCormack 氏は大変喜んでくれた。

食事が終わった頃、食後酒の注文を取りにくる。私はブランデーを頼んだ。この頃になると大勢の人が知人・友人を求めてテーブルとテーブルの間を歩き回っている。200人ものが25のテーブルに分かれて着席するのであるからこうなるのが自然であろう。

McCormack 会長が、アメリカの会長3代、つまり Jean Knudsen 2000～2001、Howard McCormack 2001～2002、Fred Pietropola 2002～2003を撮ってくれという。私はステージを背に3人に並んで貰い、歩幅で3mの距離を測る。Jeanさんがpast, present, future だと言ってはしゃぐ。撮影完了、うまくいった。



Future *Past* *Present*
Fred Pietropola Jean Knudsen Howard McCormack

次いで星条旗をバックに Fernandes Canada A A A会長、Jean Knudsen 直前会長、McCormack 会長、Tim Madge A A A U K会長、Gomes Pereira Brazil A A A会長を撮影、これも成功。ただ Lahaise A I D E会長が欠けていたのが残念だった。



Fernandes
Canada AAA会長

Knudsen
AAAUS
2000～2001会長

McCormack
AAAUS会長

Madge
AAAUK会長

Pereira
Brazil AAA会長

この後、隣のテーブルの岡田理事、Ray Hayden アメリカ海法会会長、Appelson
TM Claims Service, Vice President の3人を撮って差しあげた。



Raymond
Hayden
アメリカ海法会会長

岡田武志
JAAA理事

W. Appelson
TM Claims Service
Vice President

かくして米国海損精算人協会の2002年 Annual Dinner は午後10時30分、和やかな
雰囲気の中に散会した。

以 上